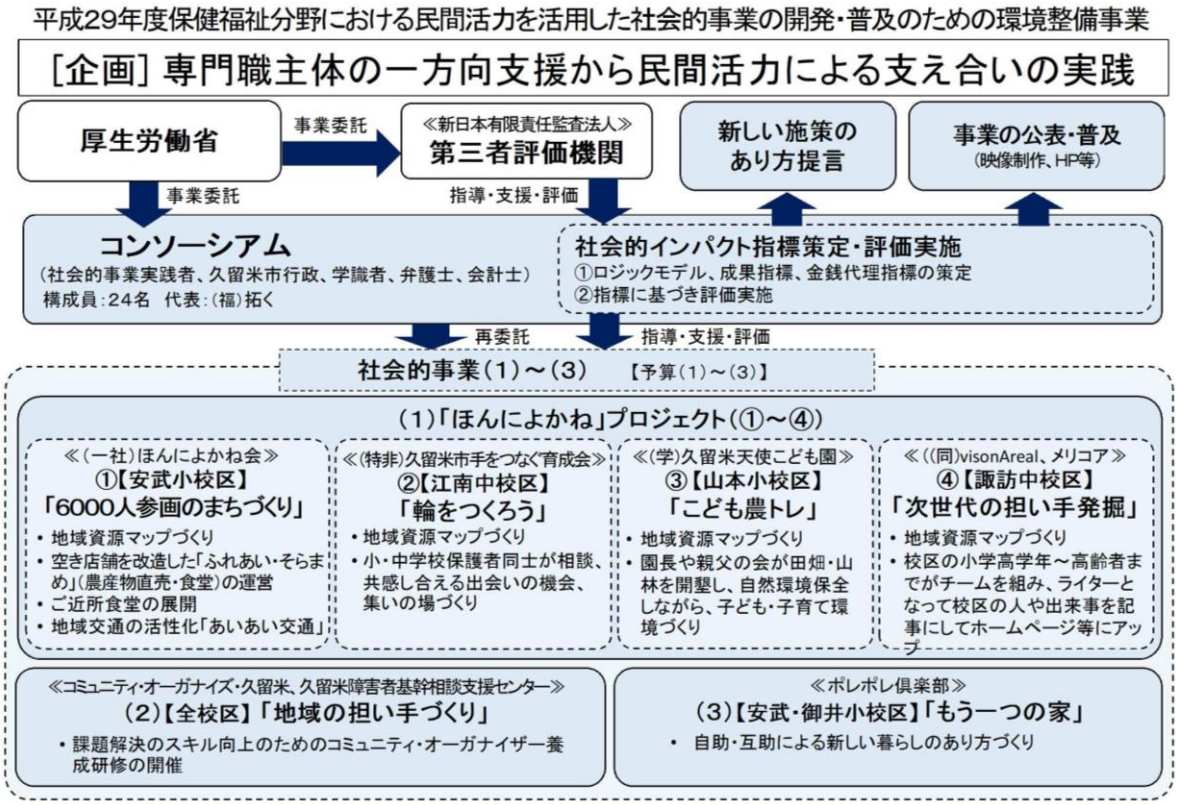
・・・Hiraku News・・・
拓ぐ
2017 冬 Vol.10
福岡県久留米市安武町武島468-2
社会福祉法人 拓く
http://www.h-polepole.com
TEL:0942-27-2039/FAX:0942-27-2086
平成 29 年 12 月１５日発行
地域に居場所を拓く
誰もがどんな状態になってもこの町で暮らす

平成 29 年度厚生労働省のモデル事業を受託
一人ひとりが社会を創る！未来を創る！

「平成２９年度 厚生労働省モデル事業」の正式名称は、厚生労働省の「平成２９年度保健福祉分野における民間活力を活用した社会的事業の開発・普及のための環境整備事業」です。少子高齢化、人口減少社会にどう向き合うのか、真剣に社会保障のあり方を研究するための国のプロジェクト。当法人は手を挙げました。

今後、若者が極端に少なくなるというピンチを前向きにチャンスととらえ、子どもや高齢者、障害者一人ひとりが、「社会を創る、未来を創る、つながりを力や財産にする」機会だと考えていきたいと思います。そこで、「専門職主体の一方向支援から民間活力による支え合いの実践」という目標設定で、当法人は２９人で構成されるコンソーシアムの代表、事務局を務め、この事業を推進していきます。モデル事業は、平成２９年１０月１日から平成３０年３月３１日まで実施します。

（理事長　馬場　篤子）



第 16 回ポレポレ祭り
～皆さんのご協力、有難うございました～

10 月 29 日（日）、2002 年から始まったポレポレ祭りも 16 回目を迎えました。台風が接近する中で、開催も危ぶまれましたが、直前に会場の規模を縮小、ステージを室内に移動するなどの対応をして無事に開催することができました。

前日は雨が降る中、ボランティアの皆さんも濡れながらの設営。当日も雨が降り天候が悪い中ではありましたが、バザー１６団体、ステージ出演８団体、４００人を超えるボランティアの皆さんが集まり、予想した以上にお客さんも来場されました。広告協賛に２７２件、バザー用の野菜もたくさん提供いただき、収益金は約１７０万円。ボランティアで関わっていただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。

今年は、ポレポレ祭りの原点である「人と人のつながり」をもう一度大切にしたいと思い、テーマを「つながりは、声をかけるところから」にしました。今まで関わりのなかった団体に声をかけて参画していただき、森を大切にというメッセージが込められた椅子づくりや障害がある方もスタッフとして関わったフェイスペイントなどの新しいコーナーが生まれました。つながることで気付きがあり、学びがあり、新しい発想が生まれるなど、今回も内容が深まり、視野が広がったように感じました。他にも、イベントでは新しく「なんかもっとらっＳＨＯＷ」を企画し、地域の方々に声をかけていろいろな特技・主張を持つ方々に集まっていただき、温かい雰囲気の中、大いに盛り上がりました。

今回も、被災地・東北、熊本の皆さんが祭りに参加され、被災地の現状などをお話していただきました。改めて災害と私たちの暮らしを考える機会が持てることは、この祭りの大きな役割ではないでしょうか。

第 16 回の収益金につきましては、これまでの収益金を合わせて計５００万円を安武町の活性化に取り組む住民組織「一般社団法人 ほんによかね会」へ寄付させていただくことになりました。地域住民の皆さんが力を出し合い、暮らしやすい町に変えていく地域づくりの一助になればと思います。障害があるなしの垣根を超えて、みんながつながっていけるように、このポレポレ祭りをこれからも続けていきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

（第 16 回ポレポレ祭り実行委員長　野瀬　渉）

第１６回ポレポレ祭り　収支決算報告

収入の部

項　　目	金額
広告・協賛	1,997,000
バザー売上	882,971
東北売上	211,090
熊本売上	59,150
ガレージ売上	336,826
学校交流売上	36,350
手作り･メンバー作品売上	58,700
こども広場売上	116,450
その他	42,042
収入合計　①	3,740,579

支出の部

項目	金額
消耗品費	115,505
通信･印刷･ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ代	306,256
バザー材料費	478,417
東北仕入費	128,409
熊本仕入費	50,000
こども広場材料代	31,550
学校交流材料費	21,171
ステージ設備費	155,098
その他	750,769
支出合計②	2,037,175

繰越金

第 15 回までの繰越金	5,113,168
第 16 回収益金（①-②）	1,703,404
合　　計Ａ	6,816,572

よかね会寄付

第 13 回収益金	127,665
第 14 回収益金	1,552,187
第 15 回収益金	1,616,744
第 16 回収益金	1,703,404
合　　計Ｂ	5,000,000

収支差Ａ-Ｂ(次回繰越)	1,816,572

ポレポレ祭り レポート
「こども広場」は大盛況でした！

２年前から、ポレポレ祭りで、子どもが楽しんで遊べる場所を設けたいと考え、「こども広場」を企画、実施しています。今回は、「つながりは、声をかけるところから」というテーマの下、「こども広場を盛り上げていこう！」という思いで、今までつながったことのない企業や市民団体、地域の方々に呼びかけ、新しい企画を実施しました。

地域の高齢者の方々は、昔懐かしい「射的ゲーム」、未来工房さんは「椅子づくり・マイ箸づくり」、SORA さんは「フェイスペイント」、地域の高齢者で構成する皿回しチームは「皿回し体験コーナー」など、子どもが楽しめるコーナーを一緒に作ることができました。

当日は、台風の影響もあって雨が降っており、来場者が少ないのではないかと心配しましたが、蓋をあけてみると、地域の子どもから大人の方まで多くの皆さんに来ていただき、大盛況でした。

恒例の学校交流ブースでは、子ども達によるフリスビーゲーム（鳥飼小学校）やそら豆マグネットの販売（安武小学校）をしました。ポレポレの利用者さんと交流を重ね、当日の打ち合わせや準備も重ね、はじめは緊張して接し方に戸惑っているようでしたが、段々と慣れてきて、子ども達も利用者さんを名前で呼ぶようになってきました。当日は子ども達が店員になり、立派に自分達で運営していました。

回を重ねるごとに、こども広場は、様々な年代の方々が顔を合わせる場、みんなが混ざり合い楽しめる場になってきていると実感しています。今回、初めて知り合った方々や団体に声をかけ、一緒に汗をかいたことで内容に広がりが生まれたと実感できました。来年も、いろいろな人に声をかけ、ポレポレ祭りを一緒に盛り上げていきたいと思います。

（子ども広場担当　小川　真太朗）

11 月 大分旅行に行ってきました

＜ポレポレ旅行＞

平成２９年度のポレポレ旅行は、11 月 14 日・15 日と 21 日・22 日の４日間（1 泊２日）、２班に分かれて大分に行ってきました。

前年度までは個人旅行や小人数旅行を行ってきましたが、今まで集団で動くという経験をした事のないスタッフも多く、今年度は集団旅行を選択。大人数で行動する旅行をみんなで経験してきました。中には初めて旅行に参加するスタッフ、更にケアホームの勤務がないスタッフにとっては、利用者さんと夜間をともにすることも初めてで、とても貴重な体験になったと思います。

今回の旅行では、１ 日目が「アフリカンサファリ」、２日目は水族館「うみたまご」へ行きました。初めて訪れる利用者さんも多く、特にアフリカンサファリで乗ったジャングルバスでは、目の前にいる動物に餌をあげたり、動物と触れ合ったり、皆さんにとって１番の思い出になったのではないでしょうか。また、宿泊先のホテルでの夕食の宴会では、カラオケを楽しまれたり、中にはお酒を飲まれたり、２時間があっという間に過ぎるほど楽しい時間をみんなで過ごす事が出来ました。

今回の旅行では集団という事もあり、様々な場面で困難な状況もありました。

① 食事の際、ミキサーはどうするのか。
② バスでの移動が多い中、みんなが快適かつスムーズに行動するには。
③ 限られた時間の中、トイレ休憩などはどうするか。

そういった状況が想定される場面を、事前にスタッフ一人一人が考え、各機関に前もって連絡し、協力していただいた事で、大きな混乱もなく２日間の旅行を無事に終える事ができたと思います。

今回特に感じた事は、集団で動くのは大変と思う反面、みんなで協力できる場面も多々あり、今回の旅行で経験した事を様々な場面で今後も活かせていけたらと思います。これからもみんなで楽しい経験を増やしていきたいと思います。

（出会いの場ポレポレ　児玉　元気）

安武そら豆の加工品、完成！
予約販売を始めました！

安武そら豆の栽培も６年目に入り、今シーズンも、１０月に天心幼稚園・安武保育園・住吉保育園、安武小学校３年生の子どもたちとの定植を終えました。春の収穫までそら豆の成長が楽しみです。

そして、待ちに待った安武そら豆の加工品が完成しました。「安武そら豆そうめん」は、２年前から販売していましたが、今回、新たに「安武そら豆豆板醤(とうばんじゃん)」と「あげそら豆」が完成。豆板醤とあげそら豆は、株式会社森光商店さんより全面的なご協力をいただき、商品化することができました。商品を作るだけではなくパッケージにも力を入れ、安武そら豆で作ったことをＰＲできるようにリーフレットも合わせて作りました。今回、企業の方々と協力することにより、新たな発想が生まれ、自信をもってお届けすることができる商品になったと思います。

さて、豆板醤と聞くと、中華のイメージがありますが、「安武そら豆豆板醤」は和食にもぴったりで、肉じゃがなどの煮物にもよく合います。原材料は国産にこだわり、地元安武町で作られた味噌や唐辛子を使用。５ヵ月以上の熟成期間を経て、ようやく完成する、私達の自信作です。

「あげそら豆」は、おやつやおつまみに合うように小袋サイズで販売しています。

今後、出会いの場ポレポレの利用者さんと一緒に製造し、販売していきます。

ぜひ、ご賞味ください。　　（統括本部長　北岡　さとみ）

豆板醤を利用した料理の一例

ピリ辛肉じゃが

- **そら豆そうめん**
- **豆板醤**
- **あげそら豆**

のセット

自由に組み合わせできます

あげそら豆

ピリ辛肉味噌そうめん

寄稿　　驚きました！
～特別養護老人ホーム「よりあいの森」を訪問して～

９月にポレポレ倶楽部と安武校区社会福祉協議会との合同研修として、福岡にある特別養護老人ホーム「よりあいの森」を訪問しました。この企画は、今年２月に予定していましたが、直前になって中止したという経緯があり、今回総勢４１名の参加を得て実施できました。

「よりあいの森」での実践は、高齢者介護の概念を大きく変えるものであり、参加者一同、自らの老後や老親の介護を重ねながら、多くを考える機会となりました。

当日はまず、「よりあいの森」施設長の村瀬孝生さんより施設の案内と説明を受けました。村瀬さんは２３歳のときから、３０年にわたりこの仕事に携わっておられる方でした。

宅老所やホームの実践理念は、
①高齢者をたらい回しにしない　②隔離しない　③縛らない　④薬漬けにしない　⑤おしっこ・うんこはトイレでする　⑥食べ物は口から食べる　⑦ひとりぼっちではなく気心が知れた仲間と味わう　⑧仲間と季節を楽しむ　⑨最期は穏やかに寿命を迎えられるよう努める　だそうです。

この理念のもとに
１．住み慣れた街で自分らしく暮らす。
２．これまで培ってきた生活習慣を大切にする。
３．ありのままに老いて穏やかに寿命を迎える。
このことを日々実践活動されています。

施設は定員２６名で、木造住宅です。床は椋の木と畳が敷き詰められており家庭的な造りが特徴的でした。また、入浴は職員さんが一緒に浴槽に入っているとのことで驚きでしたし、入居者の食事にかかる時間は決められていないので、中には２時間ぐらいかけて食べる人もいるそうです。そして、部屋には鍵をかけず本人が自由に出入りできるようになっていました。私達が説明を受けていた時も一人の方がバルコニーに行かれましたが、職員の方がさりげなく見守っておられました。ほどなくして部屋に戻ってこられました。

多くの施設では、ともすれば利用者よりも職員の仕事がしやすいような仕組みの中で運営されていますが、利用者本位の姿勢で運営されている姿には心打たれました。このような施設が少しでも多くなるように、行政や関係者に強く望むところです。今回、貴重な体験をさせていただき有難うございました。これを機会に高齢者の生き方について、私自身学んでいきたいと思いました。

（安武校区まちづくり振興会　生涯学習部　会長　原口　繁治）

寄稿 一般社団法人「ほんによかね会」会員募集中です！

安武町を活性化するための「安武ほんによかね会」が、平成２９年７月６日にスタートしました。同会は、子ども、障害者、高齢者を含めた住民が安武町をさらに住みやすくするための活動を、５部会に分かれて活動しています。さらに、大きく前進するために、１１月１６日、一般社団法人「ほんによかね会」になりました。

以下に、各部会での取り組みを紹介します。

① **直売所「そらまめ」**では、安武の農作物を地産地消目的で販売し、また新鮮な野菜を使って住民に食事を実費で提供していきます。このことで、高齢者の生活を支え直売所に人が集い、楽しみやくつろぎで交流が広がり、安武町の活性化と賑わいをもたらします。特に建物のバリアフリー化や障害者トイレも増設し、車いすやどんな状態の人でも利用できるようになりました。（８頁参照）

② **「地域食堂」**は、「三原さん家」の地域食堂を直売所「そらまめ」に移し、火曜日と金曜日に食事を提供します。このために直売所にキッチンを完備し、装い新たな食事場所となり多くの住民が利用できることになります。さらに今後、食事以外の提供も検討していきます。

③ **「安武あいあい交通」**は、高齢化が進みマイカー運転もできなくなる前に住民の足を確保する目的で、タクシー事業者に運行を委託する活動です。町内の買物支援、また地域公共交通とのつながりを視野に入れて運行していきます。

④ **「地域デビュー部会」**は、安武町を盛り上げたい！安武町が大好き！と心から思い、行動する若者をこの地域で増やしていくための活動です。
１１月２１日から毎週火曜日､｢安武３ヶ月チャレンジ企画｣を｢安武憩いの家｣で開催し、安武在住の３０代から５０代のママ１４名で「安武モンペ」作りに挑戦します。参加者より､「こういう企画でのつながりを待っていた」との声がありました。また、１２月より地域食堂との連携・交流をしていきます。

⑤ **「みとるかい部会」**は、子どもから高齢者までこの安武で豊かに育ち、老いていくために必要な活動をします。まずは、未来を築く子どもたちの「生きる力（気づき・考え・行動する力）」を育むために、学校と地域が連携して出来ることを考えていきます。

（一般社団法人 ほんによかね会　理事　原　英康）

12月、安武農産物直売所「そらまめ」地域の拠点として再オープン！

JA くるめ安武農産物直売所「そらまめ」（安武町）が閉鎖されて、１年以上が経過し、何とか以前の活気が取り戻せないだろうかとの思いが、地域の皆さんの中で強くなっていました。

国全体の問題でもある少子高齢化の波は、安武地域にも押し寄せています。その課題を少しずつでも解消していくには、次世代の若い人たちが住みたいと思える地域、また、高齢者になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる町づくりを考えていかなければなりません。

その思いから、平成２９年７月に地域住民が主体となり「安武ほんによかね会」が立ち上がりました。（現在・一般社団法人ほんによかね会）

今回、ＪＡくるめの皆さんと協力し、運営をサポートすることで、直売所を改装、12 月 1 日に開所の運びとなりました。以前の野菜等の販売に加え、「三原さん家」で行っていた地域食堂を移行し、毎週火・金曜日の２日間、昼食を食堂で提供します。元々、地域食堂は高齢者の方々にバランスのとれた昼食を提供する目的で始まりました。今回も営利目的ではなく、材料代として「ほんによかね会」の会員さんを対象に３００円で提供します。食事を作って下さる方も、皆さんボランティアで活動をしていただいています。

農産物直売所“そらまめ”が、今後安武町の中心として、また多世代の人たちが集い・交流し活躍できる場所として、活気あふれる拠点となるように、みんなで力を合わせていければと思います。

（一般社団法人　ほんによかね会　理事　野田　文子）